

# 命のしるし(第一回)

小俣麦穂

## 1. 下を向いた少女

岩場の目立つ丘陵が続く、元ティオキア王国領の南東部。点在する集落をつなぐ細い道のひとつに、二つの人影があった。

マントを羽織った旅姿で、帯剣したふたりは流れ者の備

兵だ。小柄なほうが、立ちどまってフードを上げ、空を見る。金髪が風に乱れた。

少年のように華奢で端正な顔立ちだが、表情に乏しく、頬には大きな傷跡があった。名を、シエルツという。

「崩れそうだ」

錆びれた色の空を、雲はちぎれた旗のように流れていた。

絵 長浜めぐみ

